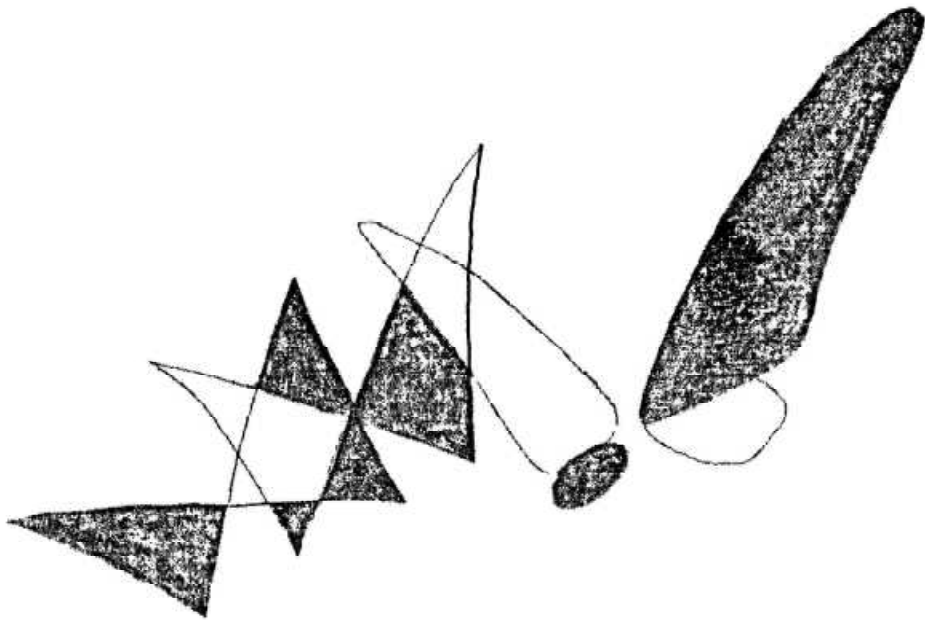


すすむし

Vol. 9 No. 3



R.J

倉敷昆虫同好会

1959・Oct.

目 次

表紙デザイン 友野良一

伯耆大山の昆虫相 VI

INSECT FAUNA OF MT. DAISEN WESTERN JAPAN

..... 佐藤清明 1

おとしぶみ (短報)

訂 正 赤枝一弘 7

竜の口にナニワトンボ多産 赤枝一弘 7

岡大でアオハダトンボ 赤枝一弘 7

阿部山でネキトンボ 赤枝一弘 7

高梁市玉川でヒメサナエ 赤枝一弘 7

都窪郡福田村でクロツバメツジミ 赤枝一弘 7

雌山付近採集小説 (甲虫編) 若林正史 8

伯耆大山昆虫採集記 前田喜四雄 10

編集後記 12

伯耆大山の昆虫相 VI

(ENTOMIC FAUNA OF MT. DAISEN, WESTERN JAPAN)

岡山清心女子大学 佐藤 清 明

(S. Satō ; The Notre Dame Seishin College)

(May 1951)

927	<i>Picromerus lewisii</i> SCOTT.	クチブトカメムシ	
928	<i>Plantia stali</i> SCOTT.	チャバネカメムシ	
o 929	<i>Puccilocoris lewisi</i> DIST.	アカスジキンカメムシ	
930	<i>Sastragala scutellata</i> SCOTT.	モンキカメムシ	204
931	<i>Urochela luteovarina</i> DIST.	ナンカメムシ	
932	<i>Zicrona coerulea</i> L.	ルリカメムシ	
	<u>(115) 緑椿象科 Coreidae</u>		
933	<i>Homococeros concoloratus</i> UHL.	アズキヘリカメムシ	213
934	<i>Megalotoma costalis</i> STAL.	キベリヘリカメムシ	217
935	<i>Molipteryx fuliginosa</i> UHL.	オオヘリカメムシ	212
936	<i>Riptortus clavatus</i> THB.	ホソヘリカメムシ	217
	<u>(116) 長椿象科 Lygaeidae</u>		
937	<i>Aphanus albomaculatus</i> SCOT.	モンシロナガカメムシ	228
938	<i>Geocoris proteus</i> DIST.	ヒメオオメカメムシ	225
939	<i>Pachygrontha antennata</i> UHL.	ヒゲナガカメムシ	226
940	<i>Paradinchus lewisi</i> DIST.	クロモンナガカメムシ	
	<u>(117) 星椿象科 Pyrrhocoridae</u>		
941	<i>Physopelta gutta</i> BURM.	アカキボシカメ	230
942	<i>Pyrrhocoris tibialis</i> STAL.	フタホシカメ	
	<u>(118) 水亀科 Gerridae</u>		
943	<i>Gerris lacustris</i> L.	ヒメアメンボ	
944	<i>G. paludum</i> FAB.	アメンボ	
	<u>(119) 食椿象科 Reduviidae</u>		
945	<i>Ithinocoris ornatus</i> UHL.	アカヘリサンカメムシ	250
946	<i>Velinus nodipes</i> UHL.	ヤニサシカメムシ	251
	<u>(120) 盲椿象科 Capsidae</u>		
947	<i>Adelophocoris variabilis</i> UHL.	フタモンメクラガメ	259
948	<i>Deraecoris ater</i> JAK.	モンキメクラガメ	260
949	<i>Dicyphus lamtus</i> UHL.	アカアシメクラカメ	
950	<i>Stenodema rubrinerve</i> HORV.	アカシヤクメクラカメ	
951	<i>Trichophorochus albinotatus</i> TAK.	ヨツモンメクラカメ	258

<u>(121) 蟬 科 Cicadidae</u>		
952	<i>Graptosaltria nigrofuscata</i> MOT.	アブラゼミ 278
953	<i>Meimuna opalifera</i> WK.	ツクツクボウシ 280
○954	<i>Melampsalta radiator</i> UHL.	チツチゼミ 282
955	<i>Onchotympana maculicollis</i> MOT.	ミンミンゼミ 281
956	<i>Platypleura kaempferi</i> FAB.	ニイニイゼミ 278
957	<i>Tanna japonensis</i> DIST.	ヒグラシ 280
○958	<i>Terponosia nigricesta</i> MOT.	エゾハルゼミ 281
959	<i>T. vacua</i> OLIVER.	ハルゼミ 281
○960	<i>Tibicen bihamata</i> MOT.	コエゾゼミ 279
○961	<i>T. flammata</i> DIST.	アカエゾゼミ 279
○962	<i>T. japonica</i> KATO.	エゾゼミ 279
<u>(122) 角 蟬 科 Membralidae</u>		
963	<i>Gargara genistae</i> FAB.	マルツノゼミ 301
964	<i>Orthobelus flavipes</i> UHL.	ツノゼミ 300
<u>(123) 泡 吹 虫 科 Cercopidae</u>		
965	<i>Aphrophora intermedia</i> UHL.	シロオビアワフキ 276
966	<i>A. stictica</i> MATS.	ホシアワフキ
967	<i>A. vitis</i> MATS.	ブドウアワフキ
968	<i>Philagra albonotata</i> UHL.	テングアワフキ 278
○969	<i>Peuceptyelus matsumuri</i> M. & H.	コミヤマアワフキ 272
970	<i>Peuceptyelus auropilosa</i> MATS.	オビアワフキ
<u>(124) 横 這 科 Jassidae</u>		
971	<i>Athysanus limbifera</i> MATS.	クロスシロヨコバイ
972	<i>Cicadella ferruginea</i> FAB.	ツマグロオオヨコバイ 283
973	<i>C. masatonis</i> MAT.	フタテンヨコバイ 294
974	<i>C. sexnotata</i> FALL.	ムツテンヨコバイ
975	<i>C. viridis</i> L.	オオヨコバイ 283
976	<i>Chlorita flavescens</i> FAB.	ウズメヨコバイ 298
977	<i>Delphatodes striatella</i> FALT.	ヒメトビウンカ
978	<i>Epicanthus stramineus</i> MOT.	フタテンオオヨコバイ 285
979	<i>Eucanthus interruptus</i> L.	キスジカンムリヨコバイ 287
○980	<i>Jassus dentatus</i> MATS.	ヒメアミメヨコバイ
981	<i>Macropsis dorsalis</i> MATS.	セグロアオスジケンヨコバイ 296
982	<i>Platymetopius cinctus</i> MATS.	ミスジヒロトガリヨコバイ 291
<u>(125) 浮 塵 子 科 Fulgoridae</u>		
983	<i>Betacixius brunneus</i> MAT.	セアカヒシウンカ
984	<i>Gergithus variabilis</i> BUTC.	マルウンカ 321
985	<i>Issus harimensis</i> MATS.	カタビロヒシウンカ 322
986	<i>Sogata furcifera</i> HOKY.	セジロウンカ 319

	(126) 木 蝨 科 <i>Psyllidae</i>		
987	<i>Psylla coccinea</i> KUWAYAMA.	ベニキジラミ	325
<u>直 翅 目 ORTHOPTERA</u>			
	(127) 蝗 蛄 科 <i>Gryllotalpidae</i>		
988	<i>Gryllotalpa africana</i> PAL.	ケラ	42
	(128) 蟋 蟀 科 <i>Gryllacridae</i>		
o 989	<i>Eremus testaceus</i> SHIRAKI.	ハネナシコロギス	
990	<i>Gryllocris japonica</i> MAT. & SHIR.	コロギス	41
	(129) 窟 馬 科 <i>Stenopelmatidae</i>		
991	<i>Diestrammena apicalis</i> BR. V. WATT.	カマドウマ	
992	<i>D. japonica</i> KARNY.	マダラカマドウマ	42
	(130) 蝗 虫 科 <i>Locustidae</i>		
993	<i>Acridae lata</i> MOT.	シヨウリヨウバツタ	31
994	<i>Gastrimargus transversus</i> THB.	クルマバツタ	27
995	<i>Gampsocleis burgeri</i> D. H.	キリギリス	40
996	<i>Holochlora japonica</i> BR. WATT.	クダマキモドキ	34
o 997	<i>Isotema japonicum</i> MAT. & SHIR.	ホソクビツユムシ	33
998	<i>Metriopectera japonica</i> BOLIV.	イブキギス	41
999	<i>Pachytylus danicus</i> L.	ダイミヨウバツタ	27
	(131) 竹 節 虫 科 <i>Phasmidae</i>		
1000	<i>Staelenches illepidus</i> WATT.	エダナナフシ	
	(132) 螻 蛄 科 <i>Mantidae</i>		
1001	<i>Paratenodera sinensis</i> STAL.	カマキリ	68
	(133) 蝗 蝻 科 <i>Forficulidae</i>		
1002	<i>Anechura lewisi</i> BURR.	コブハサミムシ	74
o 1003	<i>Eparchus yezoensis</i> MAT.	エゾハサミムシ	75

珍 種 の 略 解

39 ニイニクヒメバチ *Amblyteles niikunii* MATS.

北方系の昆虫、大高山頂に多い。キミスジヒメバチに似ているが体に黄紋が少く脚は黒く、脛節中央のみ黄、体長14mm、千島、樺太、本州、朝鮮に分布する。

58 ハキマルヒメバチ *Metopius hakiensis* MATS.

南方系の昆虫、大高山頂に多い。体は黒く顔に黄色、腹にも黄の二横紋があり、脚は黄と黒の縞になる。翅は透明でやゝ暗黄、体長20mm、九州に分布する。

75 ツマセグロハバチ *Allantus sapporensis* MATS.

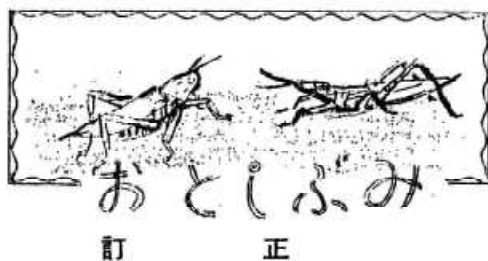
北方系、大高山頂に多い。体は緑黄、翅は透明でやゝ黄褐、脚部には前後に黄の横条がある。体長11mm、北海道に分布。

- 86 フトオビコンボウハバチ *Zasaca triangularis* TAKEUCHI,
 美しい高山峰で、大山頂上に多い。昭和16年竹内吉蔵氏が新種としたもの。壮大。黒色で金緑光沢を放つ。触角は棍棒状、体長14mm、九州久住山、シベリアに分布。
- 87 ミヤマハンミョウ *Cicindella sachalinensis* MOR.
 高山性のハンミョウ。裏大山に多い。暗褐緑色を呈し、光沢は少い。翅鞘には左右各3点があつて黄色である。体長16mm、樺太一本州、中国、鮮満、シベリアに分布。
- 101 ナガヒラタムシ *Cupes clathratus* SOLSKY.
 奇形の昆虫で、ホタルに似ておる。樹蔭に多い。体は細長く背は暗褐色で点刻7条がある。触角は太く長く扁い。体長10mm、北海道、本州、シベリアに分布。
- 104 エゾアリガタハネカクシ *Paederus parallelus* WEISS.
 高山性、北方系の昆虫で大山は分布の南限らしい。アオバハネカクシに似ておるがや、大きく後胸は黒褐で腹後方拡がる。樺太、北海道、本州中部までの山岳産。
- 118 アカボシオオチビキノコ *Tritoma solivaga* LEWIS.
 日本特産の微小種、オオチビキノコ属中の珍種、1887年箱根芦ノ湖畔でレウイス氏採集以来50年目に大山にてオ2の産地を発見した。標本は日本に皆無であつた。モンクロオオチビキノコに似て、翅鞘は黒く、肩に赤紋が1こ宛ある。
- 167 ダイセンタマムシ *Coraeus daisensis* MIWA.
 大山特産種。翅鞘は美しい金緑色を呈し細長く、小波状縮刻を密布、波形三横帯が白い。三輪勇四郎氏の新種、体長7mm。
- 208 キアシカミキリモドキ *Oedemera manicata* LEW.
 高山性昆虫、帯緑黒色翅鞘は細長く尾部は狭まつて隙を作り後翅を透見する。前脚は黄赤色、体長8mm、本州、四国に分布し、日本アルプスに多い。
- 334 テツイロハナカミキリ *Eucyclops olivaceus* BATES.
 高山性昆虫、北海道、アムールに産し、大山は南限か。ホソハナカミキリに似て緑色で光沢なく脚には黒紋あり。体長8mm。大山は本種の産地として名高い。
- 341 ダイセンカミキリ *Glenn daisensis* MATSUSHITA
 =*Phytoecia simulus* BAT.
 大山に多い代表的昆虫、一名ヒメキクスイカミキリ。1931年大林氏大山にて発見し松下貞幸博士上記の新学名を付したが、後に台湾におる既知種と判明して後の学名に変更した。体長10mm、胸背に黄白条があり、翅鞘は赤褐色で、4目紋がある。*G. relicta* PASCOE に似ておるが、それ(シロホソカミキリ)は翅端に長刺があるので区別する。
- 362 ニツコウホソ(コ)バ(ネ)カミキリ *Nicydalis nikkoensis* MATS. & TAMAN.
 日光産天牛の珍種で、松村松年博士玉貫氏と共に新種としたものである。1932年荒木東次氏大山寺で採る。其後に教氏採集。
- 361 ガロアホソコバネカミキリ *Nicydalis galloisi* MATS & TAMAN.
 有名なガロア氏が日光で発見した珍種で、前種に似ておるが色、大きさで異なる。黒田、星野氏等大山で採集。
- 401 ヨスジハナカミキリ *Strangalia ochraecefasciata* MOTS.

- 有名な高山性天牛、大山と剣山は名高い産地である。暗褐色に四筋の黄紋がある。樺太、千島、北海道、本州、四国、九州、鮮満に分布。体長17mm。
- 419 ムツモンオトシブミ *Apoderus praecellens* SHARP.
高山性昆虫、大山山頂付近に産す。光沢ある黒色、翅鞘に黄赤色の3対の円紋がある。体長7mm、本州産。
- 485 オオチヤイロハナムグリ *Osoderus opicum* LEWIS.
有名な高山性昆虫、中国地方唯一の産地、大山横手に多い。黒褐色金属光沢、翅鞘は円味少く、ミカン様の芳香あり。体長25mm、幼虫はブナ、杉の害虫、日光、富士山、赤城山、高野山、奥多摩に分布。
- 523 コフホシヒラタアブ *Metasyrphus jesoensis* MATS.
山頂産、高山性の虻。フタホシヒラタアブに似ているが、黄紋が沢山に分離するもの。体長10mm。
- 537 フタホシヒラタアブ *Syrphus corolla* FAB.
山頂産。黒緑色。頭は黄、腹部に黄色円形の二紋が星状を呈す。体長11mm、北海道、本州、シベリア、欧州に分布。
- 567 ウススジガガンボ *Tipula taikun* ALEX.
北海道の種。南限か。体は灰褐色、翅は透明で黒紋は明瞭、背面に一淡条が通つてゐる。15mm。本州北部にも分布。
- 572 ダイセンヤマップユ *Gunus daisensis* TAKAHASHI.
高橋弘氏の新種、アシマダラブニに似ているが、胸背は黒色、脚は淡黄で斑紋が著しくない。体長4mm。
- 571 サトウクシヒゲキノコ *Platyloptilon satoi* KOIZUMI.
私の採集した珍種、1946年8月大山寺にて採る。本属最初の邦産種。模式種はセイロンと南米に居る。体長3mm。
- 575 ヤマトオオカバエ *Olbiogaster yamamotoi* OKADA.
岡田一次氏の所産。1934年7月山本茂信氏発見のカバエ、大山特産種。
- 581 オサダクシヒゲアブ *Rhachicerus osadai* KOIZUMI.
長田昭三氏採集、1946年7月大山にて発見、本属最初の邦産種、体長6mm、南方熱帯系で模式種は熱帯、台湾にも近似種がある。
- 590 キンイロアブ *Tabanus sapporensis* SHIRAKI.
山頂産、黄金色で輝く金毛がある。翅は透明、脈は金色、体長11mm、刺されたら痛烈である。
- 629 アサギマダラ *Danaus tytia nipponica* MOORE.
暖国の蝶、ゆるやかに帯斑、大形で翅は淡い水色で美しい紋がある。開張100mm。大山の横手や森田山道に多い。
- 654 ウスイロヒヨウモンモドキ *Melitaea protomedia* MEN.
ヒヨウモンモドキに似ているが地色が淡い。信吾大山は代表的産地として名高い。開張40mm、朝鮮、シベリア、中国に分布。
- 687 フジヨドリシジミ *Quercusia fujisanus* MATS.
富士山で最初に発見、次に大山、上高地、吉野等で採集、雌雄で色彩を異にする。

尾状突起がある。本州、四国、九州に分布。

- 679 ジョウザンミドリシジミ *Favonius ultramarinus* FIXEN.
エゾミドリシジミに似て尾は更に長く、オオミドリシジミに似て円紋は連続してゐる。定山溪、信州、温泉と共に大山は名産地、北海道、本州、鮮満に分布。
- 683 ダイセンゴマシジミ (新称) *Maculinea euphemus daisensis* MATS.
大山特産。1925年松村博士採集 *Ins. Mats. vol. 1, p. 27.* (1926に *Lycæna euphemus daisensis* MATS.) として発表。翅の斑紋は少く且つ一列になつてゐる。
- 686 ホウキンシジミ (新称) *Plebejus argus hokiensis* KOBAYASHI.
1930年小林賢三氏大山で採集して発表、翅表はやゝ暗色、外縁の暗黒色帯は巾広い。 *Zephyrus* III 3-4号。
- 697 ダイセンダイミヨウセセリ (新称) *Daimio tethys daiseni* BLEY.
関西一帯に産す。後翅に白帯がある。食草ガガイモ、イケマ、ヤマノイモ、本州、四国、九州、朝鮮に分布。
- 722 ダイセンシヤチホコ *Drymonia daisensis* MATS.
松村博士が雄を発見、 *Ins. Mats. VII. no. 4* (1934) に発表、大山特産種。
- 738 ダイセンギンボシカレハ *Eriogaster daisensis* MATS.
松村博士雄を発見、北大紀要 XIX p. 22に解説、ギンボシカレハに似ているが、前翅の銀紋は小、大山の特産なるも私は道後山でも採つた。
- 752 ウスボシベッコウカギバ *Deroca inconclusa* WK.
昼飛性稀種。白灰色の美しい蛾で翅は半透明。大山横手に群飛することがある。
- 753 ホシベッコウカギバ *Deroca phasma* BUTL.
昼飛性稀種。ウスボシベッコウカギバに似ているが稍々小、斑紋は濃い、道後山でも多産。
- 779 タカムクヤガ *Rhyacia takamukui* MATS.
房州館山で発見されたものであるが私は大山で採集。帯灰色の赤褐小蛾。
- 848 ダイセンミズメイガ (新称) *Epiminia daisensis* SHIBUYA.
大山特産。黄色の美蛾。イネハジカミズメイガに似ているが、紋様が曲線的である。緑の黒色部も広い。1922年松村博士雄を採集、 *Ins. Mats. III 2-3号 p. 135* (1931)
- 863 ヤマトニジュウシトガリバ *Orneodes japonica* MATS.
一名ヤマトタヨリ。大山寺に多産す。ニジュウシトガリバに似ているがやゝ小さく淡色、翅に24枚ある。北海道、本州、九州に分布。開張14mm。
- 954 チツチゼミ *Melampsalta radiator* UHLER.
山地性の蜉。日本最小種。8月下旬から出現、ヂチチと鳴く。黒くて茶褐色の条がある。体長20mm。本州、四国に分布。
- 958 エゾヘルゼミ *Terponosia nigricesta* MOT.
北方系。ブナ林にすむ。6月中出現、鳴声の特異である。体長35mm。北海道、本州、四国、九州に分布。
- 960 コエゾゼミ *Tibicen bihamata* MOT.
山地性の代表的蜉。北方系、エゾゼミより小形、7-8月に出現、ギャーギャーと鳴く。体長33mm。
- 989 ハネナシコロギス *Eremus testaceus* SHIRAKI.
昭和11年7月中林氏等採集、コロギスの無翅種。稀品。



訂 正

VOI. 8. NO. 4. 「おとしぶみ」に発表のヤブヤンマの記録の内1956. 9. 1♂ 龍の口、の記録はその後調べた所ミルンヤンマ *Planal sohna milnei* SELYS. の♂のまちがいと分りましたので誤しでおわびすると共に今後このようなまちがいがいよう注意いたします。なおヤブヤンマ♂は本年6. 14. 龍の口連峰で採集しました。

また^{*}自宅付近で採集した蜻蛉2種^{*}の内メガサナエの記録はその後近似種にナゴヤサナエ、オオサカサナエのある事を知り、現在安東氏にお預かり願ひ、同氏の手で調査中なのはつきり種名が分つてから、あらためて記録したいと思ひます。いずれにせよ小生の軽薄さから関係諸氏に御迷惑をおかけしたことに對し深謝いたします。(赤枝一弘)

龍の口にナニワトンボ多産

59. 8. 24. 龍の口山系の西大寺市側のため池で本種を多数目撃1♂を採集した。(赤枝一弘)

岡大でアオハダトンボ

1959. 6. 岡大前の小川でアオハダトンボ♀を採集した。比較的少い種であるから一応報告しておく。(赤枝一弘)

阿部山でネキトンボ

ネキトンボは筆者が龍の口で記録したのが唯一の記録であつたが1959. 6. 21. 矢掛から阿部山(遙照山の続きになる)へ登つたさい頂上附近のため池で、羽化直後の個体を多数見、その内5♂ 1♀を採集した。その日はその池のまわりのトンボは本種といつてもよいほどで個体数も非常に多かつた。(赤枝一弘)

高粱市玉川でヒメサナエ

本種は昨年、美作で道信氏が記録され、又安東氏、青野氏も採集されているが、未だ少い種である。ここでは他にオオムラサキ、サカハチチヨウ、アサマイチモンジ、ヘリグロチャバネ、トラフジミ、ミヤマカワトンボ、オナガサナエ、コオニヤンマ、ミヤマクワガタ、ルリカミキリ、ゴマフカミキリ、ラミーカミキリ、アカスジカメムシ等採集した。(赤枝一弘)

都窪郡福田村でクロツバメジミ

同村の榎本氏から知らせがありましたので報告しておきます。1958. 4. 16. 6. 30. 前者は早い記録である。(赤枝一弘)

昆虫標本高価買入

価格表御希望の方又お問合せは
100円切手御封入下さい。

東京インセクト

東京都杉並局私書箱22号

雌山付近採集小記 (甲虫編)

若 林 正 史

すずむしVOL. 8, NO. 5 で青野氏の「雌山付近採集小記」に「甲虫についての知見も小野、若林両氏によつて近いうちに報告される筈である」とあるが正直なところ甲虫の方は全々目ぼしい物がなく報告しようにもしようがないので、採集中の下らん事ばかりを書く事にした。

5時42分の汽車で行く事になつていたので西総社駅へ出ると窓から小野さんが顔を出してくれたのですぐとび乗る。見ると居るはずの青野さんが居ない。小野さんに聞くと、「汽車が出るまでプラットで待ちよつたんじやが来なんだ」そうだ。でもひよつとすると乗つてるかも知れないと思つて、後の方を探していたら最後の車輛に案の定、何とも妙な顔をしてすわつてられたから、「小野さんがこうこうですよ」と話したら、「アリヤツ、僕もベルが鳴るまで待つてようよ最後の車輛へ飛び乗つたんじやがなあー」とか。どうやら小野さんはプラットホームで待つていて青野さんは駅の外で待機していたから、お互いに会えなかつたらしい。おまけに青野さんは西総社で僕を探してくれたんだけど、僕はすぐ小野さんのいる景前列車へ飛びこんでしまったから僕にも会えず、とうとう自分が日を間違えたか、二人が遅刻したかのどつちかだと思出した。あげくに一人でも行く決心をしていた。と言うのだから少々妙な顔つきになるはずである。実際打合せが不十分だったもんだから僕も駅へは迷惑をして出たものどどこまで切符を買つたらいいのかわからなかつたような次第。何とも変な顔合わせではあつたけれども、どうにかめでたく三人揃つて県北行きとなる。(小野さんはいつもこの、人と待合わせるのでイライラして血圧を上げるそうだ。)

姫新線の刑部と言う駅で下りて雌山行きのバス時刻を見ると、かなり時間があるので周辺を採集する事にして、まず駅前の積木をひつくり返してみたらタマムシの頭のないのや、ハンミョウの翅や足のバラバラになつてカラカラにかもいたのが出て来ただけで何も採れなかつた。一つ町を越えて、まだ朝露のしたたつている、いかにもゼフィロスの居そうな所へ来たが案の定、青野さんがウラジオドリやゴマツジミ等を採られた。このように葉道は最早からついていて、足が凝かつたが、甲虫屋の方はタマムシの首のないのが示すごとくてんでついていなく、足が重くて道端の山羊の子の頭を握てたり、コガネムシをつかまえてヒゲをひつぱつたり、にらめつこをしたりで時間をつぶした。やつと時間が来てバス中の人となる。しばらく行つているとトラツクと出逢つて、トラツクの運転手がバス客の一人に急らしいものを、「川で採つたんじや」と言つて渡していたから見ると、ウナギとアユのグソとくるようなやつだったから、恐々のつぶやいてイワク「今日晩のおかずにほしいなあ！」バスの脇道はだんだん峡谷となつてき、静かだつた水の音もはげしくなり、岩石も山泉画に出て来るそれのように、そうそうと高くそびえだした。谷間を何匹も飛んではきえるミヤマカラスアゲへの素晴らしい光沢が我々の胸を揺らせ始めた。かなりの長い時間、そうした岩石と溪流と木々の緑のしつとりとした、しかも奥地らしい大規模な美しさが私達を楽しませてくれた。いい日には鳥獣の群が水を飲みに下りて来て岩の間を飛びかうそうである。今日泊まる事になつている六井野小学校の前で下りて校庭のすみの木蔭に腰を下して、おいしいにぎり飯を食べ、冷いお茶でのどをうるおした。それから今日の宿を翌日に職員室へ入つて行つたら女の先生と校長先生の二人が居られて、非常に親切にもてなしてくれた。ここの校長は理科に力を入れているらしく、僕等がもつともらしい顔をして、「雌山付近の昆虫を調査に来た」と言つたら、校長も負けない位もつと

もらしい顔をして、自分は長年サンショウ魚の研究をしていて、サンショウ魚は砂に穴を掘って住むのだ、サンショウ魚を採る時には、水をかえだして穴から出て来るのを採れればいいのだと得意になつて話し出した。又「雌山には牧野富太郎博士が植物を調査に来た」、とも言つた。しばらくそこで休んで村の子供二、三人を道案内にして、雌山へ登り出した。雌山は頂上のほんの一部を除いては全体青草におおわれた美しい山だつた。ここでも甲虫屋はてんでだめで、僕の青野さんは期待していたものは殆んど採るという好成績だつた。やがて1064mの雌山頂上を征服して、村の子を交えて、記念撮影としゃれこむ。期待していた、この頂上から見えると言う大山はあいにく雲をかぶつて見えなかつた。下山は雌山と雄山の谷間を採集する事にし、ここで小野さんと私は榎木から天牛類の普通種ばかりをしこたま採りこんだ。中腹の辺から皆しきりに空腹をうつた。出出したが、僕は家にいる時と同じように下山したらすぐ御飯が食べれるとばかり思つていたので、年長者の青野さんが急いで下りるようにと、せきたててくれるのも聞かずにのろのろとピーティング等しながら下りたもんだから、後で後悔した。というのは夕食の支度に二時間以上もかかつたのである。下山すると早速小さな八百屋で、玉ねぎとカボチャとを買つて来て料理に取りかかつた。家庭科室を借りて、七輪で火を起し出したが、なかなか起らず、部屋中、紙の灰だらけにして、とうとう運動場へ持つて出て起こした。温いスープとサラダと御飯に私達がありがたつたのはかれこれ10時だつた。そのころにはもう胃が完全におかしくなつていた。でもスープはおいしかつたし、御飯もたら腹食つたしで11時半ごろには皆、風呂も虫の整理もすまして床についた。あたりが静かになると、柱時計の音が妙に耳につき出した。しかもリズムがくるつていて、カチ、カーチ、カチ、カーチだからかなわない。音楽の教師である青野さんは、しきりにこの学校の先生のリズム感の悪い事を訴えていた。これに数十分悩まされた後、でも皆つかれていたのでしばらくすると気持ちよく眠つたらしい。この辺は気温がひどく冷涼で、ちょうど下界の五、六月頃の感じだつたから。布団も綿のうんと入つた、ふかふかのやつで決して暑くなかつた。このヒト月ばかりと言うもの、暑くるしい下界では、布団らしい布団をきて寝たらしく寝た事になかつた私は、このフカフカの布団に非常に満足して久しぶりに眠れたわけである。あくる朝、私は南洋の鳥の鳴声のような物にごく自然に、やさしく眼をさまされた。いつも朝起こされる母のヒステリックな声とは違つていた。時計を見ると七時半だつた。相変わらずカーチ、コチである。布団をバツとはねて半身起こすと、冷んやりとした朝の空気が肌にしみて、ちよつと驚く程だつた。しばらくは部屋中に満ち満ちた、すがすがしい朝の空気をさつき眼をさまされた南洋風の鳥の鳴声（実は野猿の鳴声）を聞き乍ら味わつていた。青野さんは？と見ると、「エツに入つた」と言うような顔をして、寝たまま、ホカーと天井を見つめていた。皆起きて朝御飯の支度に取りかかつた。ミソシルと御飯をたぐりかけたが、やつぱ

新刊書籍・雑誌・文具

愛文社書店

倉敷市阿知町 TEL 726

昆虫・植物採集用具
理化学機器

岡山市西中山下（柳川交差点東）

永瀬教育堂

電話 ☎ 4725

り昨日位時間がかかった。食後カルピスとウキスキーという聞いた事もないようなカクテルをして飯んだ。酒の好きな、と言う校長にもサービスした。掃除をきれいにし、礼をねんごろに言つて、11時頃、ネット、リュツクをかついで夏の日照りつける外へ出た。道を歩き乍ら、校長が非常に親切だつたと言つて皆ではめた。後でわかつた事には、あの校長は旅館の息子さんだそうだから接待のゆきとどいているのも道理である。

この新見へぬける道ではハヤシミドリ5.6頭、オオウラギンスジヒョウモン1頭の他はほとんど採集物はなく、てんでカラカラのコースだつた。こうして途中からバスで新見まで下りて汽車に乗り、旅のつかれをいやしてウキスキーの乾杯をして、夜の8時頃には、それぞれ西総社、倉敷の人となり、このかなり面白かつた採集旅行を終えたわけである。 —完—

伯耆大山昆虫採集記

前 田 喜 四 雄

1959年6月19日～21日に農繁休暇を利用して伯耆大山へ青野孝昭先生、森川操君と僕と三人で昆虫採集にいった。19日の朝、西総社発5時42分、一番列車に森川君と僕が乗りこんだ。先生は倉敷から乗っていた。車窓から見てももしろかつたことは総社市付近では今、田植の準備をしていたが北に行くに従つて、田植をしている所、もうすんだ所となつていたこと。そして、分水嶺をこえて、下り出すと前と反対になつていたことだつた。伯耆河口で下車すれば近いがキマダラルリツバメを採集するため米子までいった。米子には10時頃着いた。そこから大山寺部落のバスに乗り三軒屋と言う所で下車した。そこには家が一軒あつて、その家の人が乗り降りするのらしかつた。下車後さつそくそのあたりの木蔭で弁当を食べた。先生の魔法瓶に入れてあつたお茶の熱かつたのには困つた。それからその一軒屋に荷物を預けて採集開始である。始めは大山に向つて右側へ、そこにはクリの花が所々咲いていて、その花へ網をかぶせてガサガサと揺り動かしてコガネムシ科の甲虫を採集、カミキリ類はリンゴカミキリー一匹だけ、キマダラルリはベニシジミと同じような飛び方だと聞いていたので、それらしき葉を捜したが見つからなかつた。荷物を預けた所へ帰つてその人にたずねた。すると左側だと教えてくれた。それだから左側の山へ登つたがやはり全々だめ、ガツカリして山をおりて山のそばにある小さな川のそばに腰をおろしてやすんだ。そして、相談の結果、もう大山寺部落へ行こう、ということに決定して停留所へ歩きかけてからすぐ、森川がイチモンジセセリを見つけてとろうとした時、先生がそれをとめてすぐあみをふつた。とつた。キマダラルリツバメであつた。それは完全に新鮮なきれいな蝶だつた。それらのことから時期がまだ早い、ということ判断してまた、帰りに来ることにして大山寺部落へ向つた。その頃から空模様が怪しくなつて曇つて来だした。大山寺部落に着いた時には、もう、今にも雨が降りだしそうになつていた。すぐに国鉄の山の家へ向つた。部落では道ばたに積んである木でカラカネハ、シラホソカミキリ等を採集、山の家まであと半分位な所でアサギマダラが2～3匹飛んで来たが、先生が一匹採集しただけ、ヒメキマダラヒカゲもそのあたりにいたがどれも少しはいたんでいた。その頃から雨がポツリ、ポツリと降りだした。山の家に着いて、荷物をおいて、雨のやむのを待った。やんでから、大山寺部落に積んである木に来ておられるカミキリを目的に下りて行つた。そして、捜していると雨が降る。やむのを待つ、といつたぐあいだつたので、獲物はミドリカミキリ、クモヘナカミ等ほんのわずかだつた。やがて雨がはげしくなつたので採集は中止。夜になつてから

は雷を伴ったものすごい嵐になった。

20日の朝5時起床。昨日の嵐はうそかと思われる位の静けさだが、悪いことには霧が深かった。しかし元氣よく寂靜山を通つて大神山神社へ向う。途中花から少しばかりのハナカミキリ類を採集。神社について目的のフジミドリを捜したが全々だめ。そこに生きているヒグラシが一匹落ちていた。昨日の嵐で落とされたらしい。帰りは大山寺部落を通つて帰る。部落に積んである木から先生がヒメコブヤハズカミキリを採集。山の家へ帰つたのは7時少し前であつた。朝食をすませてすぐ横手道に向つた。天気は晴たり曇つたり。横手道でとれたものといえば、蝶では目的のウラクロンジミは一匹も姿を見せず、ゼフィルスといへばアカンジミのみ。これは新鮮で、三人で8~10匹はとつている。アサギマダラは時々あらわれたが、残念なことに、だれも逃がすばかりであつた。ヒメキマダラヒカゲ。クロヒカゲ。アサマイチモンジ。イチモンシチヨウは少なくない。ヒヨウモン類はまだ少し時期が早かつたのか、少なかつた。カミキリ類は木の葉上や数多いシヨウマ。シンウド等の花からヒメキクスイカミキリ。ニンフホソハナ。シラホシカミキリ。シロトラカミキリ。カラカネハナ。モモグロハナ等。文珠堂まで行けばよかつたのだが、弁当がなかつたのでしかたがない。ひきかえした。途中、ウスイロヒヨウモンモドキが柳水原に、もう羽化してはないかと思つて、柳水原におりたが、やはり早かつた。柳水原でとつたものは、森川がヨスジハナカミキリを一匹だけ、その頃から雨がポツリポツリだがすぐやんだ。そして帰りはバスの通つている道を帰つた。その時はヒヨウモン類。テングチヨウ。ヒオドシ等、コムラサキにはうまく逃げられた。アサギマダラは、やはり、時々あらわれたけれどとれなかつた。山の家へ帰つてからすぐ昼食、2時半頃であつた。少し休憩、雨がふりそうなので山の家のおすぐ前の藁円山へ行くことに決定、そして出発、登り始めた。その頃から霧がかかる。ルリヘムシはきれいな色々な色をしたのがいくらでもとれた。他にコガネ類、カミキリ類はシラホシカミキリ。サビカミキリ類等3人で5匹位であつた。蝶は一匹もとれない。頂上(8915)についてから下を見わたしたが霧が深くては何もみえない。下りは道が同じだから登りほどもとれなかつた。山の家へ帰つた。クツは相変らずビシヨぬれたつた。夕食にはすこし早かつたので、虫の整理、トラソブ等をした。夕食、入浴をすませて、少々、寒かつたが、山の家の前につけてある電燈へいつて見た。蛾はすこしきいていたが、甲虫は先生がたつた一匹とつただけであつた。明日は元谷へ行くことにして寝る。

21日。今日も5時起床。霧は深い。大神山神社へ行つたが、やはり、フジミドリはだめだつた。途中ハナカミキリ類はゴトウズル。シヨウマから少し、神社では森川がカサを逆さにして受けて、花や木をたたいてヒメコブヤハズカミキリを採集した。おもしろい所からとれたものだ。帰りに米子の中学生にあつた。始発のバスで来たのらしい。先生はその中学生にフジミドリ。ウラクロ

理学 生物・地学 標本 模型
化学 昆虫 採集 用具
物理 器具
器 器
機 機
島津製作所 岡山県代理店

サカエ商会

倉敷市栄町(赤木病院西) 電話 913番

理化学器機・光学器機
度量衡・計量器・採集用具

平田光学器機店

岡山市中之町27

電話 5475

シジミについてたずねた。結果、フジミドリは少し早い、ウラクロはもう出る時期とのことであった。朝食をすませて弁当を作ってもらい、荷物を持つて山の家にさようならをした。いちおう、部落までおりて、バスの停留所に荷物を預けた。そして元谷に向かう。天気は晴。大神山神社を通つて行つた。そこでとつたものはサカハチチロウ(春型)、ハナカミキリ類は朝とくらべれば多いがやはり少ない。元谷へ入つてからはサカハチチロウ、ヒヨウモン類を採集。ハナカミキリ類は高い所に咲いているゴトウズルの花に網をかぶせてガサガサゆすると、いくらでもおもしろいくらいとれた。平均一回に10匹ぐらいだつた。それはチャイロヒメハナ、ヨロモンヒメハナ、ミワヒメハナ、アオバホソハナ、フタオビノミハナ、シロトラカミキリ、ヒメクロトラ、トゲヒゲトラカミキリ等。テツイロハナカミキリはぼくが一匹とつただけであつた。帰りに三軒屋でキマダラルリをとるため、早く帰る。そこから帰りに、先生がアサギマダラをとる。途中、大山寺によつた。そこでとんでもないことがおこつた。僕がハナカミキリ類を毒びんにいれようとした時、それが逃げたのでおいかけた。すぐつかまえて毒びんにいれた。その時、少し前にとつたスギノアカナトラカミキリや、ハナカミキリ類が少なくなつてゐるのに気がついた。シマツタと思つても、もう遅い。毒びんのふたをとつたままだつた。すぐそこらを探したがだめだつた。折角、とつたのに残念である。部落へ帰つて、竈である木からミドリ、ウスイロトラ、ヤツメ、ゴマフ、サビカミキリ類等のカミキリ類を採集している時、森川の雨傘兼採集傘がなくなつてゐるのにきづいかったので、すぐ、返しに行くと、大山寺にわすれていた。そんなことをしている時、朝あつた栄子の中学生に、又、あつた。その中学生はウラクロ5匹、ジョウザンミドリ一匹を採集していた。バスの発車時間の20分位前に、南光 河原で、急いで、弁当を腹につめこむ。バスは三軒屋で下車、さつそく19日に先生がキマダラルリを採集した所へ行つた。いる、いる。3~4匹飛び方はベニシジミそっくりである。そこで、僕は2匹、先生も2匹とつた。森川はとれなかつたが、ウラゴマダラシジミはとつた。もうそこにはいなくなつたので、山にのぼつたが、やはり、前と同じようにいない。たつた一匹いたけれど残念、山をおりてから道路の上を飛んでいる蝶を森川がとつた。キマダラルリツバメであつた。これでみんな一匹ずつは、とつたわけである。バスが来るにはまだ少し時間があつたので、停留所のあたりでキマダラルリを探したが見つからなかつた。ヒメヒゲナガカミキリをとつただけ。まもなくバスが来た。すわれないかもしれないがお金の事を考えて伯耆大山で下車。一時間位まつて汽車にのる。前の心算はよかつた。初めはぎゆうぎゆうづめであつたがすぐ楽になり、座れた。途中、空腹のため、新見でパンをたべた。ねむたい目をこすつている間に西総社着。10時頃であつた。

編 集 後 記

- 秋も深まるにつれて昨今では寒さを覚えるところとなりました。その後皆さんにはますますお元気でご活躍のことと思います。○ 虫の活動も次第におとろえて、もう冬の支度にとりかかっていますが、私たちに春から秋にかけての採集品の整理や、研究のまとめに絶好のシーズンです。こうした中にも野山をかけめぐつた楽しい思い出がよみがえってきます。
- さる11月18日より3日間、岡山大学農学部で第19回日本昆虫学会が開催されましたが、盛会のうちに幕を閉じましたことは、郷土の虫屋にとつてよろこばしいことです。これを機会に皆さんのご活躍を期待して止みません。
- それにもまして昔日の面影を、失いつつある「すずむし」を、再び活況を呈した数年前のものと姿にかえたいものです。皆さまがたのご支援をお願いいたします。

(とん坊)

寸ずむし 才9卷才3号 昭和34年11月10日 印刷
昭和34年11月15日 発行

編 集 兼 岡山大学大原農業生物研究所

発 行 者 害虫部第2研究室内
倉敷昆虫同好会

印 刷 所 岡山市放送局通り電停角
アート印刷社 TEL③/337番